

シリーズ
原発・いのち・みらい
その77

東電福島第一原発のALPS(多核種除去設備)

処理水の正体②

種市 靖行 (白山市・整形外科)

正当化する誤魔化し方

今回は前回お伝えした通り(本紙2022年10月号6面)、ALPS処理水の問題に対する具体的な誤魔化し方に関して述べていきます。細かい問題を挙げはじめたら多すぎてきりがないので、まずは汚染の残った水を放出する量として、他の原発から放出されているトリチウムの量を基準にしてよいのかを考えてみましょう。

ALPS処理水に問題ないということを伝える

ALPS処理水海洋放出に反対している市民団体は、モルタルに混ぜて固化する

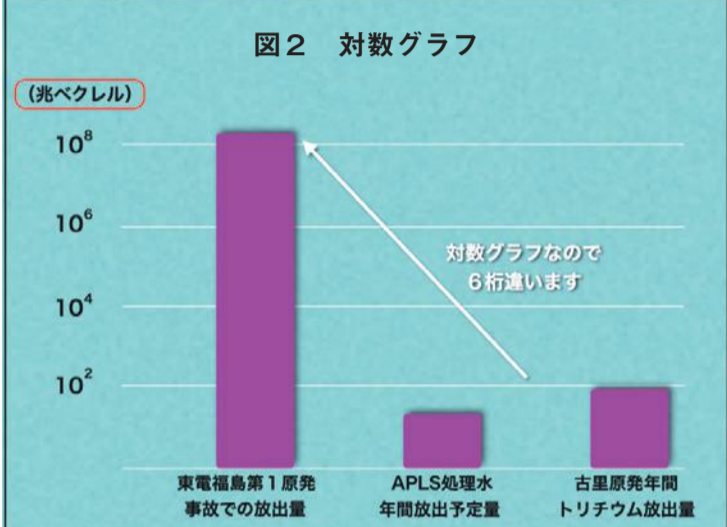
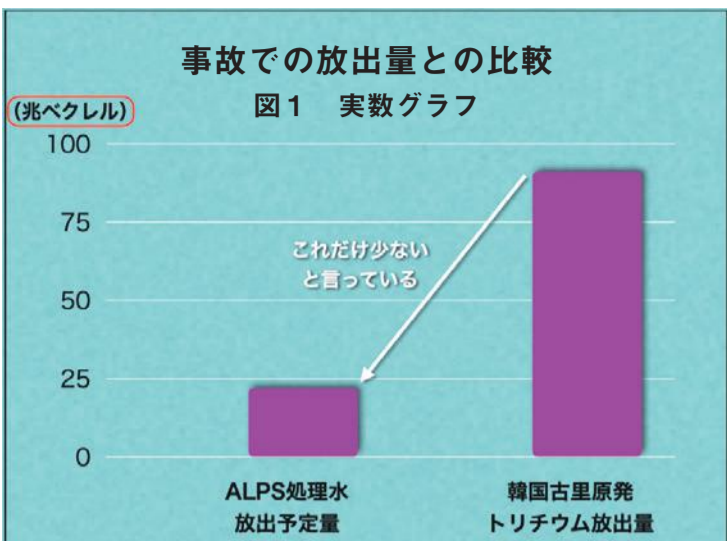
ALPS処理水海洋放出の方法や石油備蓄タンクのような大規模で安定的なタンクに入れ替えて長期保管する代替案を提示しています

4月13日の菅首相(当時)の会見以降、海洋放出を強引に押し進めています。タンクの増加による敷地逼迫がその理由とされています

海洋放出計画では現存している全ての処理水を海洋放出するまでに約30年必要だと試算されています

つまり、今後増加する汚染水も計算に入れると、海洋放出は敷地の確保には大きく貢献するとは思えません

ALPS処理水の放出予定量は、韓国古里原発トリチウム放出量の約1/100にすぎないと言っている



復興庁のチラシ「ALPS処理水について知ってほしい3つのこと」は、図1のようにALPS処理水と韓国古里原発のみを比較して解説している。しかし、実際には図2のように古里原発20万年分の汚染放出があったのだ(図2は対数グラフであることに注意)

海洋放出以外の方法

ALPS処理水海洋放出に反対している市民団体は、モルタルに混ぜて固化する

ALPS処理水海洋放出の方法や石油備蓄タンクのような大規模で安定的なタンクに入れ替えて長期保管する代替案を提示しています

4月13日の菅首相(当時)の会見以降、海洋放出を強引に押し進めています。タンクの増加による敷地逼迫がその理由とされています

海洋放出計画では現存している全ての処理水を海洋放出するまでに約30年必要だと試算されています

つまり、今後増加する汚染水も計算に入れると、海洋放出は敷地の確保には大きく貢献するとは思えません

ALPS処理水の放出予定量は、韓国古里原発トリチウム放出量の約1/100にすぎないと言っている

子どもアドボカシー



編集長のひとりごと

『石川保険医新聞』編集長 武藤 一彦 (白山市・小児科)

小児科医は、子どもの病気には詳しい。そして大事なものは、その子どもが生きている家庭や学校にも詳しいことだ。言いたいことを言えず、心にため込んだ子どもたちは、いろいろな症状を訴えて外来を訪れる。家族と話しても、「怠けている」「逃がっている」「弱虫」という家族の視点を崩しにくい。

「アドボケイト」(ここでは医師)は子どもの状況を聴きながら会話を進める。家族は会話を聴きながら、子どもの本当の気持ちに心を傾ける。その過程で、子どもの気持ちも親の気持ちも楽になる。アドボカシーとは、代弁と言うよりも親子の心の橋渡しの役割のように思う。心の行き違いを、無理なく穏やかに解き放し、同じ人間同士として正直に向き合うことである。こじれた人間関係を寄り戻すために、公平な立場の人間が不可欠なのである。

子どもと関わる仕事に就いた者は、「子どもアドボケイト」になろう。現代を生きる子どもたちの幸せと希望を実現する手助けは、私たち医療者の使命である。

「月刊 新聞記事からできた本 ども」(2022年10月号)のトピックスから、今回は聞き慣れない方も多と思われる「アドボカシー」について考えたい。アドボカシー(英:advocacy)とは、「擁護・代弁」や「支持・表明」などの意味を持つ。アドボケイトは擁護者・代弁者ということになる。医療の分野では、1970年代にアメリカで登場した「患者アドボカシー」「健康アドボカシー」などの用語もある。

日本における「子どもアドボカシー」は、不登校、緘黙、引きこもり、さらには虐待や自殺など、子どもの心の病気が増加するにつれて耳にすることが多くなったように思う。子どもたちは言葉を閉ざしながら社会への期待や夢を捨ててその状況に応じた行動に走る。これらの行動に対して、大人たちに何ができるのだろうか。まずは子どもが何を考え、どう行動したいのかを公正な立場で引き出す人の存在が必要である。つまり、子どもたちの考えを正しく家族や社会へ伝える役目を持つ人の存在である。

半減期が12年ということも考慮し、海洋放出よりも市民側が提示している方法で長期保管の方が、安全性はより優位なものと思われる。ALPS処理水の海洋放出をトリチウムだけの問題に矮小化しようとしています。その問題も多く含まれていると理解し、より安全な方法を選択するように国に働きかけていく必要があると思います。